

平成 27 年度 八王子市保健所運営会議議事概要

1. 日時 平成 28 年 2 月 18 日（木）午後 1 時 30 分～3 時

2. 場所 八王子市保健所 別館 1 階

3. 参加者名簿

	氏名	所属・役職
1	伊藤 裕司	市議会議員
2	五間 浩	市議会議員
3	青柳 有希子	市議会議員
4	八木下 輝一	市議会議員
5	梶原 幸子	市議会議員
6	石塚 太一	八王子市医師会 副会長
7	菊田 高行	東京都八南歯科医師会 副会長
8	森田 二三江	八王子薬剤師会 理事
9	河合 博明	東京都獣医師会八王子支部 支部長
10	金澤 町子	八南助産師会長
11	野崎 多枝子	精神障害者家族会「わかくさ家族の会」 理事
12	花上 均	八王子環境衛生協会長
13	峰尾 一彦	八王子食品衛生協会長
14	室岡 喜代二	八王子市社会福祉協議会長

4. 議事

- (1)第 2 期食育推進計画の策定について
- (2)動物愛護条例とその後の体制について
- (3)感染症の動向と対策について
- (4)市内精神科病院における退院調整に関する調査について

【質疑応答】

質問 1	・ヘルシーメニューをダイレクトに市民に届くように食べ歩きマップを作成し評価を市民に委ねるというアイデアはどうか。
回答 1	・ヘルシーメニュー登録店は、今現在、年に一回登録店の更新をしてもらい、新規登録も年間を通じホームページに掲載。食育ネット(八王子市独自のホームページ)に店舗の掲載もある。 ・また健康増進月間(毎年 9 月)では、利用者の方が広く増えてほしいということから、JR コンコースで普及啓発のイベントや、ホームページからクーポンを受け取れるキャンペーンがあり、市民が利用しやすく、多くの人に広く知っていただけるよう工夫をしていく。市民への周知は課題と思っている。 ・来年レシピコンテストを開催予定。(子どもたちに朝ごはんのレシピを作ってもらおう)

質問 2	・障害者の食育の推進は具体的にどのようなものか。かなりハンディキャップをもった方などの具体的な政策はあるか。
回答 2	・保健所では、デイケアで調理実習を行い、作る楽しみや素材のことを伝えている。またいろいろな通所施設で農業体験をしていて、障害者福祉課と保健所でも連携をとりたいと考えている。 ・摂食・嚥下について、障害者の食べる喜びとして、医療面とも連携を考えている。

質問 3	・アンケートでは朝食をあまり食べない中・高校生がいるということから、食育は難しいと思います。 ・八王子産の野菜を買いたいが、野菜の高騰で手に入らなくて、栄養バランスも偏ってしまう。小・中・高校生は簡単にファーストフードも手に入り、貧困ということで食育をどうやって進めていくのか ・子供一人でファーストフードなどを買って食べるなど、栄養の偏りが非常に問題だが、孤食を防ぐということについて、貧困からくる食育が進まない中でどのように計画に反映していくのか。 ・孤食を防ぐボランティアの方もいる中で、団体との支援で子ども食堂をやっている方、フードバンクをはじめようとしている方もいて、保健所はどのように関わっていくのか。
回答 3	・孤食については、ライフスタイルが家族の中でも多様化されていて、子供だけでなく、中高年の男性も多いという特徴があった。誰かと食べる楽しみを知ってもらうことで、学校や地域の方々と連携を取りながら食べる楽しみを支援していきたい。

質問 4	・第 1 期食育推進計画の事業の分析、評価を教えてください。
回答 4	・平成 28 年度に事業や連携がどれくらい進んだかを最終評価していく。第 1 期食育推進計画での目標は、食育を市民に広めること、食育を行政機関だけでなく地域の団体と連携を組むことであった。その進捗を評価する。 ・平成 26 年度に中間評価を行ったので、その指標や各課の取組み状況を踏まえ、現在は食育に関する普及啓発、ネットワークが進んできている中で、第 2 期食育推進計画の策定を進めている。

質問 5	・第 1 期計画と第 2 期計画で変わったことはあるか
回答 5	・重点事項と評価指標を作ったこと。 ・18 歳以上の市民以外に、子どもたちの意見から、子どもたちが食育に関心があることが分かったので、それに対する施策を進めていこうとしている。また、いろいろな団体との食育のネットワークの場を作ることを考えている。

質問 6	・児童、生徒への食育の推進では、親御さんが集まる機会では何か取組みを、また、町会、自治会などにお出でにならない高齢者に対してどのような対応を考えているのか。
回答 6	・子どもや高齢者は、学校側からできること、普及啓発的にできること町内でできることを合わせてやっていく。単課単課でやるのではなく広く横のつながりでやっていく。 ・子どもを通じ保護者の方を対象にした講演をやることが具体的な取組みとしてあがっている。 ・高齢者の痩せの問題も多くなってきていて高齢者の地域の中での活動を推進していくことについて、計画を推進する中で担当課から話が出ている。 ・町会や自治会に出られないような高齢者には、地域を通じた心配ごとを相談できる仕組みは大切だと考えている。取組みを今後検討していきたい。

質問 7	・散歩による犬の排泄物処理の規定は努力規定にはなっていないが、罰則はあるか。
回答 7	・努力規定よりも少し厳しい規定をしているが、罰則は設けてない。努力規定ではなくマナーであたりまえのことだと考えている。 ・尿の臭いはエチケットとしてペットボトルの水をかける。 ・罰則というより、マナーの啓発を進める。

意見 1	・ マナーの問題で、飼う前の飼い主の意識で動物病院などに来られる方には普及啓発はできるが、動物病院に来ない人で、マナーが出来てない人が多いので難しい現状。 ・ 名札も落ちる可能性があり、マイクロチップを中心にやらないと、飼い主がわからないことが多い。八王子市は助成金も出ている、猫の殺処分は減り成果は出ている。
------	--

質問 8	・ 動物推進員の方がエチケット袋を持つように犬を連れている方に声をかけるマナー啓発キャンペーンはどうか。
回答 8	・ マナー啓発キャンペーンを市内全域で行うことは現実的に厳しい。 ・ 希望する市民の方に、平成 27 年 4 月からの条例の内容を盛り込んだ看板を配布することで、啓発を行っている。

質問 9	・ 「マナー満点」というマークをつけている方に、ペットショップに行くとドックフードがもらえるなどのサービスはどうか。
回答 9	・ 資金が無いなかでやっているもので、なかなか難しいが検討していきたい。 ・ 愛犬手帳(感染症、マナー、災害時の備え、成長の記録)をペットショップ、動物病院に置いてもらい、周知している。

質問 10	・ 猫の殺処分の移り変わりはどうか
回答 10	・ 平成 23 年度から飼い主のいない猫の不妊去勢手術の助成を行っているため、以前より殺処分は減ってきて成果は出ている。 (平成 26 年 82、前年度 79、平成 24 年度は約 200 の殺処分) ・ 適正飼い主、満点飼い主を進めていきたい。

質問 11	・ 猫の里親の活動団体はどのくらいあるか。
回答 11	・ 八王子動物愛護ネットワーク(ハブネット) 保健所の駐車場において、第 1. 2. 3 日曜、屋外での譲渡会 ・ 王子猫のおうちさがしの会…高尾駅南口マンションで水土日室内での譲渡会 ・ 津久井・橋本・八王子ねこの会…南大沢駅前で週末譲渡会 ・ 保健所で引き取る前に、この三団体に連絡をして、犬、猫など引き取ってもらえる動物は引き取ってもらうという現状になっている。

質問 12	・市民にこの三団体を紹介すると集中してしまうことがあるのか。 ・捨て猫 1 匹飼いだめたら猫が増えてしまって引き取ってもらう時の啓発はどのようなことをしているのか。
回答 12	・三団体以外にもそのような団体があればぜひ紹介してほしい。 ・団体も公表を望むかどうかもあるので検討したい。

質問 13	・医療保護入院について詳しく聞きたい。
回答 13	・医療保護入院とは本人に入院の意思がなくても、医者の診断と家族の同意により、入院させること。 ・本人にとっては強制入院になるので、人権を守るために最初から退院に向け調整することが法律で規定されている。2 年前の大きな制度変更。

質問 14	・研修で外部にウイルスが拡大していくルートの確認をした。ノロウイルス対策の実地訓練を行うのはどうか、また実地訓練をビデオなどにして、実際にどのくらい飛んでいるのか、見てもらうのはどうか。
回答 14	・実地研修にすると講習者の反応も良かったので、そのような研修を検討していきたい。

質問 15	・助産師会では、3 年間かけて八王子市内全中学校で「命の授業」もしくは「あかちゃん抱っこ体験授業」を行う。八王子市から全面的に委託される予定となっている。 ・中学生には性感染症の話もしたいと考えていてもしそのような機会を頂けたら、やりたいと考えているので声をかけてほしいがどうか。
回答 15	・保健所では教材的なものの相談は受けることができる。ぜひ協力して中学生へのアプローチができるとよい。

質問 16	・このような会議の回数をもう少し増やし、堅苦しい会議ではなく、気軽に他機関からの意見も聞きやすいようにするのはどうか。
回答 16	・意見し易い会議になるように、参考にします

質問 17	・ 食材を獲った人が罰せられるのではなく、食中毒をだした飲食店が罰せられるのは矛盾していると思うがどうか。
回答 17	・ 営業停止は罰則ではなく、今後再発しないために厨房の清掃や消毒をする時間。 ・ 飲食を提供する側に普段から手洗いなどきちんと知らせる役割があり、やはり食中毒を出すところにはいろいろな課題があることが多く、そこが直接的な原因ではないかもしれないが、手洗いが一番重要なので伝えている。 ・ 以前より食中毒の件数は減っている。

意見 2	八王子市は中核市になったので、情報や事業展開を市民に発信していったほしい。
------	---------------------------------------